

提出締切：2009 年 4 月 20 日（月）

2008 年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」 報告書

研究代表者	所属機関・職名：立命館大学法学部・教授／コリア研究センター・センター長 氏 名： 徐 勝
研究テーマ	次世代研究者フォーラム論文集の発刊

I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

本「成果発信」の最大の目的は、韓国研究における若手研究者の教育・養成に取り組むための効果的な研究共有・深化の場の構築にある。これまで次世代ワークショップは、当日使用する報告集を作成し、第2回（2007年）からは『論文集』を発刊して日韓の関連研究機関・関連研究者に配布して、成果発信力の強化を図ってきた。研究成果発信は、本センターの韓国研究の学術成果を韓国で広めるとともに、より幅広い国際連携の可能性を広める役割を果たす。実際、昨年度の発刊によって多くの大学、研究所および関連分野研究者に配布することで情報の交換・共有をおこなうことができた。

今年度の発刊に際しては、審査・編集・校閲体制を強化することによって、単に発表の場のみを提供するにとどまらず、今後の韓国研究に関するより実質的なネットワークの構築と若手研究者の育成を図ることに主眼をおく。内容的には多分野に渡り、各分野における先行研究を意識した執筆を要請しているため、個人研究の公表の媒体となるが、同時に韓国研究の現在を知るうえでの貴重な媒体となろう。このような論文集の発刊は、①センターの活動広報、②研究成果の蓄積、③センター外部の研究者や韓国・朝鮮に関心を持つ人への情報発信となる点で有益である。

II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

「成果発信」に基づく論文集には計16本の論文を掲載した。この内、8本は日本からの参加者、8本は韓国からの参加者による論文であり、いずれも当該研究分野の発展に資する高い水準を示している。これら掲載論文はいずれも「次世代研究者フォーラム」における議論の結果、当初の報告時よりもさらに洗練されたものとなっており、フォーラムの成果が活かされたといえよう。

また、「成果発信」による成果は、日本の研究者80人、15の研究機関、4つの団体、韓国の研究者57人、12の研究機関、そして米国、カナダの4人の研究者に送付した。これにより、論文を掲載した新進の研究者らの研究成果が、広く日本、韓国、米国、カナダの韓国学研究者らに共有される結果となった。

以上、掲載論文の質、そして成果物の共有という二つの点から見て、今回の「成果発信」により①センターの活動広報、②研究成果の蓄積、③センター外部の研究者や韓国・朝鮮に関心を持つ人への情報発信という当初の目的は十分に果たされたといえる。

コリア研究センターでは、今年度も「次世代研究者フォーラム」を開催し、引き続き日韓の若手研究者の交流を図ると同時に、その成果を論文集として発刊し新進の研究者らの研究成果蓄積を図る予定である。